

製品名: KRIT1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85739**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000
分子量	Calculated MW: 84 kDa; Observed MW: 84 kDa

抗原情報

遺伝子名	KRIT1
別名	CAM; CCM1
遺伝子 ID	889.0
SwissProt ID	O00522
免疫原	ヒト KRIT1 の組み換えタンパク質

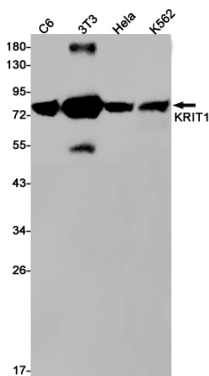
背景

心臓と血管の形成および完全性の重要な制御因子である CCM シグナル伝達経路の構成要素。血管新生の負の制御因子。一次内皮細胞

における内皮増殖、アポトーシス、遊走、管腔形成および血管新生の萌芽を阻害する。NOTCH 依存적および非依存的に AKT リン酸化を促進し、DELTA-NOTCH カスケードの活性化を介して間接的に ERK1/2 リン酸化を阻害する。CDH5 と協調して正しい内皮細胞極性および血管内腔を確立および維持し、これらの効果は Par 極性複合体および RAP1B のリクルートおよび活性化を介して媒介される。リン酸化 PRKCZ、PARD3、TIAM1 および RAP1B の細胞接合部への局在、および細胞接合部の安定化に必要。ITGB1BP1 との相互作用を介してインテグリン シグナル伝達に役割を果たし、ITGB1 と ITGB1BP1 の相互作用を妨げる。GTP 結合型 RAP1 依存的にホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸 (PIP2) 含有膜に結合する微小管関連タンパク質。細胞内活性酸素種 (ROS) の恒常性維持に重要な役割を果たし、酸化による細胞損傷を予防する。FOXO1 および SOD2 を介した抗酸化経路を介して細胞内 ROS の恒常性を調節する。FOXO1 および SOD2 レベルの調節を通じて細胞内 ROS の蓄積を防ぎ、増殖期から静止期への細胞移行に必要なサイクリン D1 (CCND1) レベルのダウンレギュレーションを促進する。

研究分野

画像データ



K562 抗体を使用した C6、3T3、Hela、K562 溶解物中の K562 のウエスタン プロット分析。